

## 米国、カナダ、オーストラリア 3カ国の豆類の生産見通し概況

### 米国：2016年12月9日公表ほか USDA Crop Production

#### 10月の農業気象概況(2016年11月9日公表)

10月中は、米国全体で驚くべき季節遅れの温暖な気候に恵まれた。実際のところ、気温が平年並みかまたは平年並みを下回ったのは、おおむねカリフォルニア州北部及び中部並びに大西洋沿岸北西部に限られた一方で、記録的な気温の高さが南西部諸州及び大平原地域、南部地域の中央部、中西部及び南東部に広がった。温暖な天候により、夏作の畑作物の成熟が促進されて農作業が進み、収穫及び冬作コムギの作付けが円滑に進んだ。

しかしながら、乾燥した天候と温暖な気温が米国南西部、ハイプレーンズ地域の中央部及び南部並びに米国南東部を含む米国南部の広大な地域に広がった。特に、米国南東部で早魃が勢力を強めたことから、牧草の生育が遅れ、冬作物及び被覆作物の作付けに遅れが生じ、ハイプレーンズ地域の中央部及び南部では、乾燥により、冬作コムギの生育が妨げられた。

これとまったく対照的にハリケーン・マッシュウによる降雨の影響で、10月始めに

大西洋沿岸地域の南部が歴史的な洪水に見舞われ、養豚場及び養鶏場に被害が生じ、綿花及びダイズといった収穫前の夏作物の一部に損害が出た。ノースカロライナ州東部及びその周辺では、天候回復後に温暖で乾燥した天候が続き、洪水被害からの復旧が進んだ。

一方、カリフォルニア州北部及び米国北西部では10月を通じて湿潤な天候が続き、各地で10月の降水量の過去最高記録を樹立し、長期にわたって影響を及ぼした早魃の被害が一掃されたり、または緩和された。太平洋沿岸北西部の各地では、10月中はほぼ毎日、降雨が続き、農作業に支障が生じたが、全般的には放牧地、牧草地及び冬作物の圃場にとっては恵みの雨となった。湿潤な天候は、ロッキー山地北部からハイプレーンズ地域に及び、本格的な寒波に先立って10月中旬の降雪が冬作コムギの発芽に影響を及ぼした。

上記以外の地域としては、米国中西部から北東部にかけて10月は、たびたび降雨が見られた。降雨があったにも拘らず、米国中西部のトウモロコシ及びダイズの収穫はほぼ予定通りに進められ、大きな遅れはなかった。北東部では、10月の暴風雨に

よって、程度の差はあるものの旱魃の被害が軽減された。降水量(湿り雪を含む)が多かったのは、大西洋沿岸地域北部並びにニューヨーク州北部及びペンシルバニア州北部だった。

#### 10月の農業生産概況(2016年11月9日公表)

10月は、温暖な気温により、米国全体で畑作物の収穫が速やかに進行した。米国の大部分の地域で気温が平年並みを上回り、ミシシッピ川沿いの低地の大部分で月間平均気温が平年並みを2.2℃以上上回った。この傾向の例外となったのが米国北西部で、気温が平年並みをわずかに下回った。

太平洋沿岸地域北西部及び大西洋沿岸南部の諸州を含めて、太平洋沿岸地域及び大西洋沿岸地域の大部分で降水量が平年並みを上回った。ノースカロライナ州、サウスカロライナ州、カリフォルニア州北部、オレゴン州及びワシントン州で、10月の月間総降水量が254mmを超えた。

10月初めにハリケーン・マシューの豪雨によりフロリダ州からバージニア州にかけて畑作物が被害を受けた。これと対照的に大平原地域及びミシシッピ-溪谷地域南部では、降水量が平年並みを下回り、農作業が順調に進んだ。

#### 乾燥食用エンドウ

2016年度の乾燥食用エンドウ生産量は、前年度に比べて48%増加して126万1,000tとなる見込みである。作付面積は前年度に

比べて21%の増加で55万8,000ha、収穫面積は前年度に比べて23%の増加で53万8,000haの見込みとなっている。実際に見込み通りの値となれば、2016年度の作付面積、収穫面積及び生産量は過去最高記録の水準となる。モンタナ州では栽培面積及び生産量が過去最高記録となる見込みであり、ノースダコタ州では生産量が過去最高記録に近い水準となっている。平均単収は、2,272kg/haの見込みであり、2015年度に比べて383kg/haの上昇となる。

モンタナ州では、5月22日までに96%の作付けが終了しており、6月12日には99%が発芽していた。7月初めには収穫が始まり、9月4日までに収穫の96%が終了していた。ノースダコタ州では、2016年度には4月初めに作付けが始まり、5月27日までに97%が終了していた。収穫は7月中旬に始まり、前年度に比べて2週間早かった。収穫は9月初めには完了しており、最近5年間の平均に比べて早かった。アイダホ州、オレゴン州及びワシントン州で生育条件は優(excellent)と報告されている。

#### オーストリアンウィンターピー

2016年度のオーストリアンウィンターピーの生産量は、2014年度に比べて71%増加して2万100tとなる見込みである。実際に見込み通りの値となれば、オレゴン州の生産量は過去最高記録の水準となる。オーストリアンウィンターピーの作付面積は、前年同時期に比べて12%増加して1万5,000haとなる見込みである。収穫面積は、

2015年度に比べて30%増加して1万1,000haとなる見込みである。米国全体の平均単収は、1,821kg/haの見込みであり、

前年同時期に比べて435kg/haの上昇となる。アイダホ州及びオレゴン州で単収が過去最高記録に達したと報告されている。

表1 米国の乾燥インゲンマメ生産見通し

作物名	作付面積 (ha)		収穫面積 (ha)		単収 (t/ha)		生産量 (t)	
	2015	2016	2015	2016	2015	2016	2015	2016
オーストリアンウィンターピー	13,760	15,380	8,500	11,050	1.39	1.82	11,790	20,140
乾燥食用インゲンマメ	714,040	670,370	692,590	634,350	1.97	1.99	1,366,270	1,259,900
ヒヨコマメ 3/	83,970	129,950	82,190	112,300	1.39		114,440	
大粒	54,750	84,980	53,100	75,640	1.38		73,260	
小粒	29,220	44,960	29,100	36,660	1.42		41,190	
乾燥食用エンドウ	462,560	559,690	438,480	540,180	1.89	2.27	829,300	1,228,280
レンズマメ	199,510	378,390	192,630	371,100	1.24	1.52	239,320	564,090
リンクルドシードピー	(未詳)		(未詳)		(未詳)		17,420	

(未詳) データが入手できていない。

(X) 適用できない。

1/ 作付面積はすべての用途のものを含む。

2/ 四捨五入により、合計の数値に誤差が生じる可能性がある。

3/ ヒヨコマメは乾燥食用インゲンマメに含まれる。

作物生産状況：2016年12月9日公表、米国農務省 (USDA)、農業統計委員会、国内農業統計局 (NASS)。

データは、入手可能な最新の報告書または前回の報告書の推定データによる。現行年度の推定である。空欄は、推定期間がまだ始まっていないことを示す。

表2 米国の乾燥エンドウ作付面積、収穫面積、単収及び生産量 (2015年及び2016年11月1日現在推定)

州名	作付面積 (ha)		収穫面積 (ha)		単収 (t/ha)		生産量 (t)	
	2015	2016	2015	2016	2015	2016	2015	2016
アイダホ州	20,640	12,140	20,230	11,740	1.57	2.80	31,750	32,880
モンタナ州	240,780	246,860	222,580	236,740	1.62	2.13	361,740	504,170
ネブラスカ州 1/	(NA)	22,260	(NA)	(D)	(NA)	(D)	(NA)	(D)
ノースダコタ州	155,800	226,620	151,760	220,550	2.41	2.38	365,730	526,580
オレゴン州	2,830	2,430	2,630	2,350	2.02	2.90	5,310	6,850
サウスダコタ州 1/	(NA)	12,950	(NA)	(D)	(NA)	(D)	(NA)	(D)
ワシントン州	42,490	36,420	41,280	36,020	1.57	2.69	64,770	96,890
その他の州 2/	-	-	-	32,780	-	1.86	-	60,920
米国全体	462,560	559,680	438,480	540,170	1.90	2.27	829,300	1,228,280

(D) 個別の経営主体のデータの開示を防ぐために公表せず。

(NA) データが入手できていない。

1/ 推定は2016年に始まった。

2/ 上記の理由 (D) で公表されていないデータを含む。

リンクルドシードピー及びオーストリアンウィンターピーを除く。

2016年11月9日公表、米国農務省 (USDA)、農業統計委員会、国内農業統計局 (NASS)。

表3 米国のレンズマメ州別作付面積、収穫面積、単収及び生産量 (2015年及び2016年11月1日現在推定)

州名	作付面積 (ha)		収穫面積 (ha)		単収 (t/ha)		生産量 (t)	
	2015	2016	2015	2016	2015	2016	2015	2016
アイダホ州	13,350	16,190	12,950	15,780	0.90	1.68	11,610	26,540
モンタナ州	95,100	212,460	89,840	208,410	1.23	1.57	110,770	327,040
ノースダコタ州	66,770	121,410	65,960	118,980	1.47	1.40	96,840	166,700
ワシントン州	24,280	28,330	23,880	27,920	0.84	1.57	20,090	43,820
米国全体	199,510	378,380	192,630	371,100	1.24	1.52	239,320	564,090

作物生産状況：2016年11月9日公表、米国農務省 (USDA)、農業統計委員会、国内農業統計局 (NASS)。

表4 米国のオーストリアンウィンターピー州別作付面積、収穫面積、単収及び生産量 (2015年及び2016年11月1日現在推定)

州名	作付面積 (ha)		収穫面積 (ha)		単収 (t/ha)		生産量 (t)	
	2015	2016	2015	2016	2015	2016	2015	2016
アイダホ州	5,260	7,280	4,450	6,470	1.34	2.01	5,990	13,060
モンタナ州	6,070	6,070	2,020	2,830	1.19	1.12	2,400	3,180
オレゴン州	2,430	2,020	2,020	1,740	1.68	2.24	3,400	3,900
米国全体	13,760	15,380	8,500	11,050	1.39	1.82	11,790	20,140

作物生産状況：2016年11月9日公表、米国農務省 (USDA)、農業統計委員会、国内農業統計局 (NASS)。

## カナダ：2016年12月21日公表 AAFC Outlook for Principal Field Crops

本報告書は、11月に公表されたカナダ農業食料省の2016/17作物年度の生産見通し報告書を更新するものである。大部分の作物について、カナダの作物年度は8月1日に始まり、7月31日に終わる。トウモロコシ及びダイズについては、作物年度は9月1日から8月31日までである。

### 乾燥エンドウ

2016/17作物年度のカナダの生産量は、前年度に比べて51%増加して480万tとなる見込みである。これは、乾燥エンドウの主要生産地域、特にアルバータ州で単収が高く、収穫面積が過去最高記録に達したことによるものである。黄色乾燥エンドウの生産量は420万tとなる見込みであり、また緑色乾燥エンドウの生産量は50万tとなる見込みであって、残りはその他の各種銘柄に少量ずつ分散している。供給量は過去最高記録の500万tとなったが、期初在庫量が少なかったことから、増加率は29%に留まった。輸出量は過去最高記録の320万tとなる見込みであり、インド、バングラデシュ及び中国がカナダ産乾燥エンドウの輸出先の上位3位までを占めている。輸出に回せる供給量が多く残っていることから、期末在庫量は大幅に増加する見込みである。供給量が多く、2016/17作物年度の期末在庫量が増加する見込みであることから、平均

価格は2015/16作物年度に比べて値下がりする見込みである。

10月中にサスカチュワン州の黄色乾燥エンドウ及び緑色乾燥エンドウの生産者価格は50ドル/t以上値上がりした。これは、主に輸出需要が強かったことによるものである。現時点までのところ、緑色乾燥エンドウの価格が、黄色乾燥エンドウの価格を15ドル/t以上上回る水準を維持している。前作物年度は、緑色乾燥エンドウの価格が、黄色乾燥エンドウの価格を75ドル/t下回った。

米国の2016/17作物年度の乾燥エンドウ作付面積は、米国農務省の予測によれば、前年度に比べて増加して過去最高記録の140万エーカー(56万7,000ha)となる見込みである。これは主としてノースダコタ州で作付面積の増加が見込まれていることによるものである。単収が平年並みを上回ると見込まれているので、米国農務省の予測によれば米国の乾燥エンドウ生産量は48%増加して120万tとなる見込みである。この結果、インド及び中国といったカナダ産乾燥エンドウの輸出市場における米国産乾燥エンドウとの競争は、より小さな規模となる見込みである。

### レンズマメ

2016/17作物年度の前年度の生産量は28%増加して過去最高記録の320万tとなる見込みである。収穫面積は過去最高記録に達したが、単収が下がったことと収穫を断念した面積の割合が高くなったことにより勢いが削が

れた。大粒緑色レンズマメの生産量は前年度を上回って60万tとなる見込みであり、赤色レンズマメの生産量は前年度に比べて増加して250万t近くとなる見込みである。その他のレンズマメ全品種の生産量は、前年度に比べて減少して10万tとなる見込みである。

期初在庫量が少なかったことから、総供給量の増加率は16%に留まる見込みである。輸出量は減少して200万tとなる見込みである。現時点では、インド、トルコ及びバングラデシュが輸出市場の上位を占めている。等級分布が平均水準を下回るとの思惑から、国内利用量は前年度に比べて増加する見込みである。

期末在庫量は大幅に増加する見込みである。期末在庫量が減少する見込みであることから、レンズマメ全品種の平均価格は2015/16作物年度の過去最高記録の水準から急激に低下する見込みである。これは、期末在庫量が増加したことと、等級分布の面で第1等級に届かない品物の比率が高いことによるものである。

11月中にサスカチュワン州の第1等級の大粒緑色レンズマメの生産者価格は、前月に比べて約230カナダドル/t上昇したが、その一方で第1等級の赤色レンズマメの価格は40カナダドル/t以上上昇した。これは主として輸出需要が強く、カナダ産レンズマメの品質が平均水準を下回るとの思惑によるものである。2016/17作物年度の第1等級及び第2等級のカナダ産レンズマメの供給量は、前年度に比べて減少した。

2016/17作物年度の第1等級の大粒緑色レンズマメの価格は、第1等級の赤色レンズマメの価格を485ドル/t上回ったが、2015/16作物年度には赤色レンズマメの価格を420ドル/t上回っていた。

米国の2016/17作物年度のレンズマメ作付面積は、米国農務省の予測によれば、2015/16作物年度に比べて90%増加する見込みであるが、これはモンタナ州及びノースダコタ州で作付面積が増加したことによるものである。単収が平年並みであるとすると、2016/17作物年度の米国のレンズマメ生産量は、米国農務省の予測によれば、2015/16作物年度の水準の2倍以上の50万tとなる見込みである。

#### 乾燥インゲンマメ

2016/17作物年度の生産量はわずかに減少して23万4,000tとなるものと見込まれている。このうち6万9,000tがホワイト・ビーンであり、16万5,000tがカラード・ビーンである。オンタリオ州の生産量が減少したが、これは主としてホワイト・ビーン及びカラード・ビーンの両方の作付面積が減少したことによるものである。マニトバ州では、ホワイト・ビーンの作付面積が増加したことにより、生産量が増加した。カラード・ビーンは生産量が減少したのは、作付面積が増加したにも拘らず、単収の低下による落ち込みの影響が大きかったことによるものである。アルバータ州では、カラード・ビーンの作付面積が増加したことにより、生産量が増加した。

期初在庫量が少なかったことと生産量の減少により、供給量は減少する見込みである。輸出量は前年と同等の見込みである。米国及びEU諸国が、カナダ産乾燥インゲンの輸出市場の上位を占めており、メキシコ及びアフリカ諸国へも、より少ない量が輸出されている。期末在庫量もまた減少する見込みである。カナダ産乾燥インゲンマメの平均価格は、北米全体からの供給量が減少したことにより上昇するものと見込まれている。

米国の乾燥インゲンマメ作付面積は、米国農務省の予測によれば、大幅に減少して130万エーカー(52万6,000ha)となる見込みであるが、これは主としてミシガン州で作付面積が減少したことによるものである。2016/17作物年度の米国の乾燥インゲンマメ生産量(ヒヨコマメを除く)は、米国農務省の予測によれば、2015/16作物年度に比べて16%減少して110万未満となる見込みであり、これは作付面積の減少によるものである。増加率が大きい銘柄は、ブラック・ビーン及びホワイトピー・ビーンである。米国産乾燥インゲンマメの輸出市場は、引き続きカナダ、EU諸国及びメキシコである。

#### ヒヨコマメ

2016/17作物年度の生産量は9%減少し

て8万2,000tとなる見込みであるが、これは収穫を断念した面積が、最近5年間の平均及び最近10年間の平均に比べて、最高記録の水準となったことによるものである。10月に、湿潤で寒冷な天候条件により収穫の遅れが生じ、その結果、品質が平均水準を下回る見込みとなった。供給量は、前年に比べて50%減少するものと見込まれているが、これは生産量も期初在庫量も減少したことによるものである。供給量が限られていることから、輸出量は2015/16作物年度に比べて大幅に減少する見込みである。米国及びパキスタンがカナダ産ヒヨコマメの輸出市場の上位を占めている。期末在庫量は減少して、ごく少ない値となる見込みである。世界的にもカナダにおいても在庫量が減少することから、ヒヨコマメ全品種について平均価格が2年連続で上昇する見込みである。

2016/17作物年度の米国のヒヨコマメ作付面積は、米国農務省の予測によれば、2015/16作物年度に比べて51%増加して32万エーカー(13万ha)となる見込みである。単収及び収穫を断念する割合が平年並みであるとすると、2016/17作物年度の米国のヒヨコマメ生産量は、AAFCの予測によれば、2015/16作物年度に比べて大幅に増加して、過去最高記録の21万tとなる見込みである。

表5 カナダの豆類作付面積・収穫面積、単収その他（2016年12月）

	乾燥エンドウマメ [a]:2016年12月21日			レンズマメ [a]:2016年9月1日			乾燥インゲンマメ [a]:2016年12月21日			ヒヨコマメ [a]:2016年12月21日		
	2014- 2015	2015- 2016[f]	2016- 2017[f]	2014- 2015	2015- 2016[f]	2016- 2017[f]	2014- 2015	2015- 2016[f]	2016- 2017[f]	2014- 2015	2015- 2016[f]	2016- 2017[f]
作付面積 (1,000ha)	1,613	1,489	1,715	1,263	1,633	2,372	126	108	115	73	50	68
収穫面積 (1,000ha)	1,588	1,470	1,686	1,217	1,630	2,323	122	107	113	70	50	44
単収 (t/ha)	2.4	2.18	2.87	1.63	1.56	1.4	2.27	2.31	2.07	1.87	1.8	1.86
生産量 (1,000t)	3,810	3,201	4,835	1,987	2,541	3,248	278	249	234	131	90	82
輸入量 (1,000t) [b]	31	16	29	13	16	75	85	80	80	8	14	20
総供給量 (1,000t)	4,170	3,901	5,040	2,786	2,921	3,396	368	364	324	269	229	117
輸出量 (1,000t) [b]	3,082	2,716	3,200	2,179	2,147	2,000	307	324	319	80	151	75
国内総利用量 (1,000t) [c]	404	1,008	960	242	702	796	26	30	0	64	63	37
期末在庫量 (1,000t)	684	176	880	365	73	600	35	10	5	125	15	5
在庫量/利用量 (%)	20	5	21	15	3	21	11	3	2	87	7	4
平均価格 (ドル/t)(d)	260	365	260-290	585	965	585-615	830	775	930-960	515	815	900-930

[a]作物年度（8月から7月）。

[b]輸入量及び輸出量には加工品の量は含まれない。

[c]国内総利用量=食用及び加工原料用+飼料用廃棄物+種子用+損耗。国内総利用量は、総供給量から輸出量及び期末在庫量を差し引いて算出した値である。

[d]生産者価格（FOB）。すべての銘柄、等級及び市場の平均。

f：推定。カナダ農業食料省。ただし、2015/16作物年度の単収及び生産量はカナダ統計局。2016/17作物年度の作付面積はカナダ統計局。

資料：カナダ統計局及び業界団体。

## オーストラリア：2016年12月6日公表 ABARES Australian crop report

### 概観

オーストラリアでは大部分の生産地域で、冬の終わりから非常に良好な条件が整っていたうえに、春を通じて生育条件に恵まれたことから、生産量の大幅増が見込まれている。

9月の降水量は、オーストラリア東部の諸州(南オーストラリア州を含む)で平年並みを大きく上回った。この結果、作物の生育の重要な時期に十分な土壤水分条件が得られた。しかし、一部の地域、特にニューサウスウェールズ州では、9月の降雨により洪水が起き、作物が冠水して生育に支障が生じた。

西オーストラリア州では、春の降水量は平年並みから平年並みをわずかに下回る程度であったが、時期がよく、作物の生育に適していた。しかし、一部の地域では、甚大な霜害により作物の生育に影響が生じた。

2016/17年度の冬作物の総生産量は、前年度に比べて32%増加して過去最高記録の5,240万tとなる見込みであり、すべての州で生産量の増加が見込まれている。この値は、2016年9月公表の『オーストラリア農業生産報告書』でのABARESの予測を14%上方修正した値となる。

### 主要な冬作物について

コムギの生産量は35%増加して、過去最高記録の3,260万tとなる見込みである。オ

ムギの生産量は24%増加して、過去最高記録の1,060万tとなる見込みである。ナタネの生産量は、22%増加して、史上3番目の記録である360万tとなる見込みである。

オーストラリア気象庁は、2016年11月24日に最新の降水量3カ月予測（2016年12月から2017年2月）を公表して、夏の降水量は平年並みに比べて少なく、気温は平年並みに比べて暖かくなる見込みであるとした。これにより、収穫は順調に進むと考えられる。

2016/17年度の夏作物の総作付面積は、前年度に比べて15%増加して、140万ha前後となる見込みである。生産者は土壤水分条件が良好な見通しであることと、灌漑用水が潤沢に得られることに反応して、作付面積を増やすものと見込まれている。2016/17年度の夏作物の総生産量は、前年度に比べて21%増加して460万tとなる見込みである。

2016/17年度の綿の生産量は64%増加して、綿花100万t前後及び綿実150万t前後が生産される見込みである。この予測は主に作付面積の増加を反映したものである。作付面積は、ほぼ2倍近い52万haとなる見込みである。

2016/17年度のソルガムの作付面積は、31%減少して47万1,000haとなり、過去24年間で最低の値となる見込みである。これは綿花栽培による収益の方が有利な見込みとなったことを反映したものである。ソルガムの生産量は29%減少して140万tとなる見込みである。

2016/17年度のコメの作付面積は、ほぼ4倍の9万haとなる見込みであるが、これはコメの生産に必要な灌漑用水の供給が増加したことに生産者が反応したことによる。しかし、コメの作付面積は、ニューサ

ウスウェールズ州南部で冬作の収穫が平年並みに比べて遅れたことにより、制約を受けるものと見込まれる。コメの生産量は増加して91万6,000tとなり、前年度の3倍以上となる見込みである。

表6 オーストラリアの豆類作付面積及び生産量

作物名	作付面積 (1,000ha)			生産量 (1,000t)		
	2014-15	2015-16 s	2016-17 s	2014-15	2015-16 s	2016-17 f
ヒヨコマメ	425	661	789	555	1,013	1,227
ファバビーン (ソラマメ)	164	282	256	284	319	500
フィールドピー	237	238	230	290	205	370
レンズマメ	189	232	253	242	258	450
ルーピン	443	490	522	549	607	969

f: ABARESによる予測。 s: ABARESによる推定。

注: 作物年度は、4月1日から3月31日までの12カ月間に作付けされた作物を対象としている。首都圏及びオーストラリア北部の数値をオーストラリア全体の生産量に含めるかどうかによって、各表の間に若干の差異が生じる場合がある。

資料: ABARES (オーストラリア農業経済及び農業科学庁)、オーストラリア統計局、Pulse Australia。

表7 オーストラリアの州別生産量

冬作物名	ニューサウスウェールズ州		ヴィクトリア州		クイーンズランド州		南オーストラリア州		西オーストラリア州		タスマニア州	
	作付面積	生産量	作付面積	生産量	作付面積	生産量	作付面積	生産量	作付面積	生産量	作付面積	生産量
	1,000ha	1,000t	1,000ha	1,000t	1,000ha	1,000t	1,000ha	1,000t	1,000ha	1,000t	1,000ha	1,000t
ヒヨコマメ												
2016-17 f	300	450	16	25	450	720	19	26	4	6	0	0
2015-16 s	291	439	13	5	338	555	17	11	3	3	0	0
2014-15	209	282	26	52	165	201	21	16	3	4	0	0
2015/16年度までの5年間の平均	249	342	37	46	217	326	18	18	4	5	0	0
フィールドピー												
2016-17 f	50	85	49	75	0	0	100	160	31	50	0	0
2015-16 s	48	73	54	21	0	0	114	82	22	29	0	0
2014-15	51	66	51	65	0	0	110	127	25	32	0	0
2015/16年度までの5年間の平均	49	64	49	56	0	0	112	135	40	46	0	0
レンズマメ												
2016-17 f	1	0	111	180	0	0	142	270	0	0	0	0
2015-16 s	3	2	100	50	0	0	130	206	0	0	0	0
2014-15	1	1	86	80	0	0	102	162	0	0	0	0
2015/16年度までの5年間の平均	1	1	84	89	0	0	100	155	0	0	0	0
ルーピン												
2016-17 f	51	66	33	50	5	7	72	125	361	721	0	0
2015-16 s	62	76	33	24	0	0	70	61	326	445	0	0
2014-15	56	66	32	26	0	0	68	75	287	382	0	0
2015/16年度までの5年間の平均	62	69	34	30	0	0	64	72	332	473	0	0

f: ABARESによる予測 s: ABARESによる推定。

注: 作付面積が500ha未満である場合、または生産量が500t未満である場合には、四捨五入により作付面積または生産量の推定値あるいは予測値がゼロと表示される場合がある。

資料: ABARES (オーストラリア農業経済及び農業科学庁)、オーストラリア統計局、Pulse Australia。

表8 オーストラリアの豆類供給及び利用状況

作物名	2009-10	2010-11	2011-12	2012-13	2013-14	2014-15
	(1,000t)	(1,000t)	(1,000t)	(1,000t)	(1,000t)	(1,000t)
生産量						
ルーピン	823	808	982	459	626	549
フィールドピー	356	395	342	320	342	290
ヒヨコマメ	487	513	673	813	629	555
見かけ上の国内利用量 a						
ルーピン	470	621	416	290	310	306
フィールドピー	196	95	130	145	175	124
ヒヨコマメ	1	39	93	1	0	1
輸出量						
ルーピン	353	186	565	169	316	243
フィールドピー	162	302	215	177	169	168
ヒヨコマメ	503	474	581	853	629	663

a: 生産量に輸入量を加えた値から輸出量を引き、さらに在庫量に明らかな変化が認められた場合には、その値を引いて算出した値。

注: 生産量、利用量、輸出入量及び在庫量は、市場年度に基づいている。ピー及びルーピンの市場年度は、11月から10月まで。輸出量のデータは、市場年度に基づく輸出期間を参照したものであって、他の資料で公表されている財務年度に基づく輸出量とは一致しない場合がある。500t未満の場合には、ゼロと表示する。

資料: ABARES (オーストラリア農業経済及び農業科学庁)、オーストラリア統計局、PulseAustralia。

表9 豆類価格の推移

作物名	2015	2015	2015	2015	2016	2016	2016
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	第1四半期	第2四半期	第3四半期
	豪ドル/t						
国内価格: ルーピン (クイナナ調べ)	350	320	322	320	297	270	278
国内価格: ヒヨコマメ (メルボルン調べ)	607	768	841	794	993	1,139	1,108
国内価格: フィールドピー (メルボルン調べ)	433	530	534	519	555	602	413
輸出価格: ヒヨコマメ b	618	699	874	865	904	1,055	1,271
輸出価格: フィールドピー b	513	575	544	568	590	646	631

a: 単位重量当たりの輸出価格は、米ドルで表記された日別価格の平均を、日別為替レートに四半期ごとの平均値に基づいて豪ドルに換算したものである。b: 単位重量当たりの輸出価格は、その四半期に輸出された穀物の平均価格を反映したものであって、現在の市場価格とは異なる。ここに示した価格は、オーストラリア統計局が記録したオーストラリアからの輸出の単位重量当たりの輸出価格当たり平均価格 (F.O.B.本船渡し) である。輸出業者による価格の取り決めの時点と、実際に輸出が行われる時点の間には、大きな時間差が生じる場合がある。

注: 第1四半期は1月から3月まで。第2四半期は4月から6月まで。第3四半期は7月から9月まで。第4四半期は10月から12月まで。価格の算出に当たっては、商品サービス税 (GST) を除外している。

資料: ABARES (オーストラリア農業経済及び農業科学庁)、オーストラリア統計局、米国農務省。